

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHのケア理念として「365日の笑顔」を掲げている。日々の活動・季節の行事はもちろん、日常的な関わりの中でも、笑顔が溢れる接し方を心掛けている。昨年度は地域密着型事業所として、認知症理解への啓発活動を「オレンジカフェ」という形で実施した。	理念である「365日の笑顔」の実践として、利用者との日常のあらゆる場面を笑顔で対応しています。昨年度は認知症啓発活動として「オレンジカフェ」を事業所みずから実施しました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であり現在は外出ができていないが、地域の方が利用者様に面会に来られるなど繋がりは継続している	コロナ禍で外出ができず地域の方との繋がりが持てない状況が続いています。その状況下で、ボランティアを通して知り合いになった地域の方が施設へ立ち寄ってくれたりしたことがあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では認知症に関する知識や、最近の福祉情勢、研究成果等についての研修機会を設け、家族や地域の参加者と情報を共有している。また、昨年より開始したオレンジカフェでも啓発や勉強会を重ねている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は運営推進会議を開催する事ができなかった。施設での出来事など、書面での伝達にとどまっていた。	例年では市の包括、社協、自治会等に参加して頂いていましたが、本年度は書面での伝達に止まっています。それに対し、家族から面会の方法などについて提案を頂き、それを取り入れた結果面会がスムーズに実施できた例がありました。	長引くコロナ禍の中で、家族とはZOOMによる面談が実現できているようですがこれを運営推進会議でも実現できるような対応を検討されるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは引き続き密な関係・情報共有を続けている。(今年度は多忙とのことで運営推進会議への参加はないが)佐倉市GHネットワークへは参加していただき、意見交換や情報共有を行なっている。	市の担当者とは緊密な連絡をとっています。昨年度はコロナ関連の情報が中心になっていました。また、昨年度は市から運営推進会議への出席はなかったが、佐倉市GHネットワークには出席していただき、意見交換等を実施し連携をはかっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人入職時、全体会議において身体拘束についての研修を行う機会を設けている。玄関施錠についてはさらさらCCとして開放に向けた取り組みを行なっていたが、会社の組織方針として施錠を現在行なっている現状。	身体拘束をしないケアについては、職員全体で常に意識を高めています。新入職者の研修では、スピーチロック、各人が日ごろのケアが無意識のうちに拘束に繋がる可能性があること、日常の振り返り等を内容にしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	尊厳を保持する為、身体拘束・虐待防止・権利擁護を一体として捉え、内部研修中心に研鑽を重ねている。スタッフ同士、ご家族とも互いにアドバイスができるような人間関係、信頼関係の構築に努めている。千葉県認知症介護指導者でもある管理者が、日頃より権利擁護の視点をもってケアのチェックを重ねている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	尊厳を保持する為、身体拘束・虐待防止・権利擁護を一体として捉え、内部研修中心に研鑽を重ねている。スタッフ同士、ご家族とも互いにアドバイスができるような人間関係、信頼関係の構築に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書について、本人、ご家族と一緒に読み合わせをし、都度疑問点を確認しながら進めている。法改正時には、重要事項説明書の変更点を抜粋して同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所された時は必ず近況報告をし、ご意見・ご要望を頂いて情報共有している(要望ノートで)。毎月送っている状況報告や電話連絡、メールにて意見をお聞きし反映している。	家族から頂いた意見、要望等は「要望ノート」で情報共有しています。内容は面会に関するものが多く、その中から、ベランダ越しとか扉を利用した面会等を実施しました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センター長は必要に応じて、個人面談等を行なうのはもちろん、毎日事業所内をラウンドしたり、業務に入ることで、現場の状況や職員の想いを把握し、運営に反映させている。	センター長は必要に応じて職員に対し、個人面談を実施するほか、業務に入って現場の状況を把握しています。また各セクションの管理者が管理者会議の際に職員の意見を聞いています。それ以外は、産業医が月一で職員面談を実施しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事考課を行い、待遇面での評価を行っている。労働時間に関しては、衛生管理者や産業医と共に管理・指導を行い、環境を整えている。職員個人の想いの把握は、管理者から聞くだけでなく、日々のラウンドを通してセンター長として吸い上げられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社として定期的に各種テーマ(新人・認知症・虐待防止・会計等々)での研修会を設けている。他に社内研修として毎月研修会を開催しており、講師も職員が担当できるよう、割り振っている。また、新人が入社後はOJTマニュアルに沿ってトレーニングを行い評価している。OFF-JTに関しては資格受講費用の補助制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年度は同業者との交流がコロナ禍もあり減少していた。そのため相互訪問等は実施できなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所までの環境・事情等傾聴しながら、本人の思いを明確化し、その情報を職員間で共有し、安心感を持って頂くよう心掛けています。入所前に使っていた介護サービスがあれば、そこから情報を収集したり、ご家族から生活歴をしっかりと聞き出してケアに当たります。入所後はもちろん常に本人の気持ちに寄り添ったケアを徹底しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期はレスパイト機能の役割を果たすことにウェイトを置いている。入所を検討される段階で、家族の切実な思い・要望・不安等十分に傾聴し、ケアプランを通して、入所後の本人と家族、職員との新たな関係性構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時あるいは初期面談に於いて、早急に必要とする支援を明らかにし、早急に介入が必要なケースでは、他GHの空状況を調べ紹介したり、他サービスへの橋渡しも行っている。緊急性については常に意識し、本年度では虐待ケースの受け入れや、徘徊問題を抱える独居高齢者の受け入れを優先して行ってきた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、サービス提供者であるとともに、利用者様と一緒に希望ある楽しい生活を作り上げる、そして支え合う関係性、GHが「ひとつの大家族」として機能することを目指しており、冗談や本音を言い合える関係性の中で生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナの情勢であり外泊や外出が制限されている。その中でも受診付き添いや必要物品の購入など家族と相談しながら利用者様に必要な支援を協力して実施できている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの情勢であり面会も制限されているが親戚等の繋がりが途切れないように扉越しの面会などで関係性が途切れない様に努めている。	コロナ禍で外出ができないため外部との交流はできません。また、面会禁止のため、家族であっても直接会うことはできませんが、ベランダ越しの面会、ZOOM、玄関の扉を閉めた面会などを実施、家族との関係性を切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「その人らしさとは？」を追求し、その人にとっての「居場所」を創りあげていけるよう努めている。入所者の性格や好み・相性を考慮し席位置や、プログラムにも工夫・配慮している。個別ケアのみならず、お互いがお互いに良い影響を与えるGHに求められる共同生活の中での関係構築に力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、入院先へ、退去先へお会いしに行ったり、ご家族からご様子を伺うこともあるが、コロナ禍であり他の方法でフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	仕事・生育歴・暮らし方等からその方の価値観・人生観をくみとる。その上、日常の会話で希望や意向などを聞き取り本人らしさが出る様支援している。	日常のケアを通して、利用者の仕事・生育歴・暮らし方等からその価値観、人生観をくみ取ります。そして、日常の会話を通して利用者の思いや意向などを把握しケアに繋がるよう支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	地域密着型事業であり、基本的に入所者は佐倉市在住の方であるが、入所時にはどのような商店を利用し、どこに出かけていたか、介護保険サービス利用時には、どのような様子であったかを聞き取り、ケアプランに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月、担当職員がモニタリングを実施している。入所者状態に変化がある場合は、申し送り・ミーティング・情報共有ノートで情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送り・ミーティング・情報共有ノート等を活用して心身の現状把握、気付き、新しい課題等、話し合いを深めている。コロナ禍の中なので行事や運営推進会議、日々の面会が困難ではあるが、電話連絡などで要望、ご意見を引き出し、ケアプランに反映させている。	ケアプランの作成に当たっては、職員の申し送り、ミーティング、情報ノート等を活用して利用者の現状把握等に努めています。コロナ禍で行事、運営推進会議等が実施できないが、電話連絡等で家族の要望、意見等を聴取してプラン作成に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付き等は、個別記録はもちろん、情報共有ノートに記入して、職員間で情報を共有、ケア実践やプラン検討に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	従来の何かを行ってもらう「介護」という視点ではなく、有する能力に応じた「支援」という視点を基に、共同生活の場として「活き活き生きる」毎日を提供している。一人一人への役割の提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	佐倉市という「地域」を大きな社会資源のフィールドであると捉え、地域の中で「生き生きする」をテーマに、毎月数回地域の店舗での外食や買い物、交流を重ねてきた。コロナ禍の中にあり外出など困難であるが、地域住民・自治会との協力体制も強い結びつきは現在も継続中である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を実施している協力病院もあるが、入所以前の主治医との関係性を重要視しており、入所に当たって十分に話し合いをして主治医を決めている。体調変化があり、家族が受診対応する際は、情報提供書を作成し、日々の様子を伝えている。	協力病院による隔週の訪問診療を実施しています。利用者が看取り期に入った際は、夜間も対応してもらっています。また、入所前に主治医がいる場合は、入所の際に十分な話し合いをしてその後の担当医を決めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約した訪問看護事業所とは身体状態・内服状況をしっかり共有、毎週の訪問前にも日々の様子や変化をFAXにて情報提供し、必要な指示を受けている。また、事業所内の他部署に在籍する看護師との協力体制も取れており、特変時には必要な指示・処置を受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に当たって本人・家族が治療に集中できるよう、居室確保や退院に向けての支援をお約束する入院時加算取得の説明をしている。協力病院とはMSWを通じて、退院した後も訪問診療や外来受診でフォローを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携加算を取得し、GHでの看取りが実施可能に。職員・家族向け研修を行っている。実際に看取り期に入られたご利用者様が当施設にてご逝去された。ご家族様からは感謝の手紙を頂いた。今後も重症化や終末期に向けた方針を早い時点で本人や家族等と話し合いより良い支援を取り組んでいけるよう努めている。	職員全員が終末期の看取り介護を実技も交えて研修しています。普段から利用者の様子をよく観察し、早い時点（明らかな食欲、体重の減少、感情表現が著しく低下した時等）で家族と話し合い、より良い支援へと繋げていきます。看取りの実例もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の初期対応については、図式化し、掲示しており、全職員が日頃から確認できるよう見える化している。避難訓練時等の研修もっており、緊急時の実践力を養っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の昼夜火災訓練に加え、自然災害訓練はコロナ禍の中、困難ではあるが日頃より防災意識を高めています。自治体とも協力体制を築いており、災害時は地域の福祉避難所として機能するよう、準備もしている。	消防署と連携して年2回の昼夜火災訓練を実施しています。日頃より防災意識を高める一環で、利用者に対しても地震や水害が起きた時の行動を説明しています。自治体との協力体制で災害時、地域の福祉避難所として機能する準備もしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	パーソンセンタードケアの理念を基に、認知症の有無に関わらず、一人の人間として、人生の先輩として、尊厳・パーソナリティを意識した尊厳を高める接し方を心がけています。日々の入浴・排泄等の対応においても、十分にプライバシーを配慮し、支援を行っている。	排泄介助の際の声かけに十分気をつけています。失敗した時には自尊心を傷つけないよう、次に自信を持ち直してもらえるよう職員は接し方を心がけています。入浴の際は、利用者同士が対面では座らないようにし、また、脱衣は自らするように配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護支援計画のプランニングにおいて、本人の意思が計画に反映されるよう配慮を行っています。また、日常生活での意思決定場面においても、「しますよ」ではなく、「〇〇してみましようか？」と本人の意思確認の下で、支援に移るようにしています。外出・外食の目的地は、入所者の希望を聞いて出かけるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「入所者主体」の大原則を徹底しており、日課として定められたライフパターンから多少ずれる、外れることがあっても、本人のペースで過ごしてもらうようにしています。具体例を出しますと、最近入所された様については、精神疾患の兼ね合いもあり、食事の時間になると体調不良を訴えます。対応としては、様食べたい、食べれると思った時間で食事提供をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後、鏡の前に座っていただき、その日の髪型を職員と一緒に決めます(整えます)。入浴後には、おしゃれができるよう、洗面台周りを居心地の良い空間になるよう、配慮をし、化粧水や乳液で肌の手入れをしていただきます。イベント時には、化粧をしていただき、マニキュア等でもお楽しみいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの段階から入所者が関わりをもってもらっています。下膳の手伝い、食器拭きまでも手伝ってくれる方もいます。食事が楽しい時間であるよう、食席の配慮、食事会の会話等にも気を遣っている。	食事を楽しむことができるよう、利用者の関わり、お手伝いの機会を様々な場面で設けています。母の日のテイクアウトのちらし寿司から入所者の話題が広がっています。	コロナの状況下、食事を楽しむ工夫を色々考えて行っています。更に季節を感じるメニューなど、職員と利用者が一緒に考えながら楽しく取り組めるものを少しずつ増やしてゆく事を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の嚥下状態に合わせた食事形態で提供し栄養を摂れるよう努めている。基本的に栄養士が考えたメニューに沿って料理している。水分量も1日1500以上摂るように心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行なっている。うがいでできない方は、オーラルティッシュで口腔内清拭を実施している。訪問歯科を受けている方については定期的に口腔内の点検と指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	座位が保てる方には、出来るだけ、トイレでの排泄を促している。立位が取りにくい方には2人介助でトイレで行なっている。	出来るだけトイレでの排泄を促すため、I-PADでのケアカルテを活用しながら言葉がけをしています。立位が取りにくい2名の利用者には、職員2人介助で支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、牛乳・オリゴ糖・食物繊維等で自然な排便を促している。定期的にヨーグルトを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けしても『入りたくない』という方には時間をずらして再度、お誘いしたり、日にちをずらしたりと工夫している。音楽を流してリラックス出来るような空間作りをしている。	入浴の声かけに嫌がる人や、機能低下の人への対応を、入浴する必要性や説明をわかりやすい言葉かけで丁寧に行なっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも、体調等を見て、居室にて休んでいただくこともある。夜間は、眠りに就くまでなかなか時間がかかるかたに関しては、休まれるまで側にいて安心できる時間を作る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更となった場合でも薬についての副作用・なぜその薬が処方されたのか、また服薬してどうなったのかの記録の周知を申し送り・受診記録を通して行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出レクができないため、室内でいちご狩りなど行ないない季節を感じていただき、楽しみや喜びを感じていただけるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	何を食べたいか、どこに行きたいか？常に職員との会話の中に日々、出てきます。	コロナの状況下、希望通りの外出外食がしにくい中、テイクアウトで食事を楽しんだり、ペランダでの外気浴や施設玄関前で外の空気に触れられる工夫をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭は預かっているが、ご自分で少額持っているかたもいる。外出した際にはご自分でそこから支払うこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実際に携帯を持っている方もいる。その他、電話したいと希望があれば会社の電話から繋げている。年賀状など、書きたい方は、はがきを買い、毎年出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	第一に家庭的な空間・清潔な空間作りを心がけている。明るさや臭い・温度など毎日調整している。	共用の空間がいつも家庭的で清潔さが保たれるよう、明るさや匂い、温度など細かく調整しています。職員と利用者一緒にフロアの掃き掃除や居室内掃除機がけなど居心地よい空間づくりをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方とは同じテーブルに座って頂いている。その他、ゲームや歌を歌うとき、誕生日会などは一つに集まりみなさんと楽しい時間を過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具や食器などを持ち込んでご本人が安心して過ごして頂ける空間作りをしている。	利用者本人が自宅で使っていた家具や食器、飾り物や趣味のものなどを持ち込んで、自宅と同様の空間を作る努力をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子・シルバーカー・歩行器など使用している方でも十分に確保出来るよう、動線を確保している。トイレの場所がわからなくなるような、トイレの案内表示なども掲示している。		